

第5・6学年 図画工作科

1 学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想したり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく生活を創造しようとする態度を養う。

2 内容

| | |
|-------------|--|
| A 表 現 | <p>(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合ったりしながら、どのように活動するかについて考えること。</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、後世の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。</p> |
| | <p>(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。</p> |
| B 鑑 賞 | <p>(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。</p> |
| 〔共通事項〕 | <p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。</p> <p>イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。</p> |

3 内容の取扱いと指導上の配慮事項

- (1) 児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などにも幅をもたせるようにする。指導に当たっては、目指す資質・能力を明らかにし、児童の表現を幅広く捉えるとともに、児童が自分の思いで活動を進めることができるようにすること。
- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、児童が〔共通事項〕のアとイとの関わりに気付くようにする。自分の感覚や行為によって、自分なりのイメージが生み出されることを造形遊びをする活動や絵や立体、工作に表す活動、鑑賞する活動を通して児童が気付くように指導すること。
- (3) 第5学年及び第6学年においては、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉えられるようにする。児童がそれらを捉えられるように、造形活動の過程などで児童が対象と直接関わることがで

きるようにすること。

- (4) 「A表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見いだし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにすること。
- (5) 学習の過程においては、一人一人の児童がよさや個性などを生かして活動できるようにし、友人と互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。そのために友人の作品や活動、言動に関心をもつことができるような交流の場面を設定すること。
- (6) 第5学年及び第6学年においては、針金、糸のこぎりなどを児童の表現方法の広がりに対応した材料や用具として用いること。
- (7) 児童の発達や実態を考慮した上で、児童一人一人が自分の関心のある表し方で表現を楽しみ工夫できる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。
- (8) 「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。
- (9) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動を充実すること。
第5学年及び第6学年の鑑賞においては、他者との交流を重視した活動を取り入れ、児童の資質・能力の育成を重視した指導計画の工夫をすること。
- (10) コンピュータ、カメラなどの情報機器の利用については、表現や鑑賞の活動で使う一つの用具として扱うとともに、必要性を十分に検討して利用すること。
- (11) 一人一人の児童が創造することを大切にした指導を積み重ねることで、その価値に気付かせるようにする。中学校美術科での素地を育成するため、様々な情報などを主体的に取り入れながらも、自ら考え工夫するような創造活動の意味や価値が実感できるようにするとともに、自分たちの作品や美術作品に表れている創造性を大切にすることを養うようにすること。

4 安全指導

造形活動で使用する材料や用具、活動場所については、安全な扱い方について指導する、事前に点検するなどして、事故防止に留意すること。様々な学習場面で児童が材料や用具を扱う機会をつくり、十分に慣れ親しむことができるようにすることが重要である。

5 学校としての鑑賞の環境づくり

校内の適切な場所に作品を展示するなどし、平素の学校生活においてそれを鑑賞できるよう配慮する。また、学校や地域の実態に応じて、校外に児童の作品を展示する機会を設けるなどする。

6 評価の観点の趣旨

| 観 点 | 観点の趣旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 自分の感覚や活動を通して、形や色などの造形的な特徴を理解し、効果や可能性を確かめながら材料や用具を生かして使うことで、表現方法を工夫したり、造形活動を充実させたりしている。 |
| 思考・判断・表現 | 自分が表現したいことや表現方法などを考え、感性や想像力を働かせながら活動や表し方を思い付いたり、親しみのある作品などのよさや美しさを味わったりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自分らしい活動を求め、つくりだす喜びを感じながら、形や色などを視点に楽しく豊かな生活を創造しようとしている。 |